



城下町新発田会報 あやめ

第74号
2022.01.15
発行
城下町新発田会
広報委員会
新発田会 検索



新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

さて、この2年間は新型コロナウイルスに翻弄され、城下町新発田会の活動も全く行うことができませんでした。残念であり、申し訳ない思いですが、会員のみなさんの健康が第一であり、致し方ありませんでした。

今年こそは、安全・安心な日常が戻りますようお願いしております。その折には、通常の総会・懇親会・レクリエーション等に加え、昨年実現できなかった創立20周年の記念事業も実施したいと存じますので、ご期待いただければ幸いです。輝かしい新年にあたり、みなさまの更なるご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

令和4年1月



城下町新発田会
会長 小野 悦男

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、城下町新発田会の皆さまには、平素からふるさと新発田に物心両面にわたりご支援とご協力をいただいていることに感謝申し上げます。

今年は寅年です。寅は十二支の3番目で、春が来て草木が芽吹くような「成長の年」といわれています。去年は、新型コロナウイルス感染症との闘いの日々でした。まだ予断を許さない状態が続いておりますが、厳しい状況の中でも地域を盛り上げようと、当市でも飲食券の発行や「新発田牛と日本酒のマリアージュ」「しばた大物産展」など、飲食店や市内ホテル・旅館、企業とコラボしたイベントを実施し、社会経済活動も少しずつ動き始めています。みんなで協力し合い、創意工夫を重ねることで新たな何かを生み出す、まさに、成長の年となることを心から

願っております。

さて、新発田市出身の実業家大倉喜八郎の向島別邸として建てられた「蔵春閣」の、新発田駅前・東公園への本体移築工事が、今年の4月末に完了予定となっております。引き続き一般公開に向けた準備を進めてまいりますので、ふるさと訪問にお越しいただく際には、ぜひ、「蔵春閣」にもお立ち寄りいただければと思います。再び、皆さまとお会いできる日が来ることを心待ちにいたしております。

結びに、本年が皆さまにとりまして幸多い年となりますよう、また城下町新発田会のますますのご発展を祈念申し上げます。



新発田市
二階堂 馨 市長

令和4年1月 新発田市長 二階堂 馨

新発田市と海老名市が災害協定を締結

11月8日、海老名市役所において、新発田市（二階堂馨市長）と海老名市（内野優市長）の災害時における相互応援協定の調印式が執り行われた。新発田市側からは市長、見田賢一地域安全課長、新発田盛綱会9名（伊藤喜行会長・城下町新発田会会員）と城下町新発田会・小野会長が出席した。

この協定締結のきっかけは、新発田市（旧加治川村）出身で海老名市在住の大坂城二元市会議員（本年4月に逝去）が、鎌倉時代に新発田地域・加地荘の地頭に任ぜられた佐々木盛綱が、少年期から約20年、渋谷荘（海老名・高座地域）で育った史実をもとに、両市に協定の締結を働きかけたことによる。

挨拶の中で、二階堂市長は「縁を取り持っていただいた亡き大坂さんに感謝いたします。（大坂夫人同席）両市に所縁のある佐々木盛綱を介して協定が調印に至ったことを大変喜ばしく思います。位置的な関係か

らもこの協定は有意義であり、災害協定のみならず、観光や商業的な交流にも発展させていきたい」と、意欲的に語った。

なお、佐々木盛綱は源頼朝を助け、鎌倉幕府誕生に大きな功績を残している。そして、盛綱の子孫は、加地荘に長く住み続けて、国人領主化し、支配した（新発田市史）とある。



就任のご挨拶

新発田市副市長
伊藤 純一

平素から城下町新発田会小野会長様をはじめとする会員の皆様におかれましては、新発田市の取組にご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

このたび4月1日をもちまして、新発田市副市長の職を拝命いたしました。もとより微力ではありますが、市長が目指す「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」の実現のため、これまでの経験を生かし全力を尽くす所存でございます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大の収束の兆しが見えない中、新発田市でも集団予防接種がはじまり感染収束への道筋も見通せるのではないかと期待しているところですが、城下町新発田会の皆様からも毎

年、お祝いのメッセージを頂戴している夏を締めくくる「城下町新発田まつり」も今年も残念ながら中止となりました。

しかし、このような中、6月5日には「いにしえから未来へつなぐ新発田の心」をコンセプトに、当市のシンボルである新発田城をスタートし清水園や寺町などの歴史・文化を感じられるエリアを通過し、新たな100年に向けたまちづくりの拠点であるヨリネスしばたを結ぶ2.7キロメートルを、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーがおこなわれました。コロナ禍ではありますが、市民の皆様からの声援を受け、13人のランナーが市内を走り抜けました。

新型コロナウイルス感染症との戦いは長期戦となりますが、一日も早く、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、皆様とお会いできる日が来ることを願っております。

「新発田牛」にブランド認定

新潟県の和牛のブランド管理などを行う「にいがた和牛推進協議会」（会長：花角知事）は、2021年春に「新発田牛」を県内2番目の地域ブランド牛として認定しました。（1番目は「村上牛」）

新潟県のホームページによれば「新発田牛は口溶けの良い脂と柔らかな肉質が特徴」とのことです。焼き肉やしゃぶしゃぶ、ステーキに最適です。

現在新発田牛を生産している市内の農家は6戸のみとのこと、たいへん貴重です。ふるさと納税の返礼品としても好評だそうです。ぜひ一度ご賞味ください。

〈 訃 報 〉

柄澤 浩一さん（84） 4月8日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

福祉活動に使用済み切手

城下町新発田会では、今年も会員のみなさまから提供いただいた使用済み切手を、社会福祉法人・新発田市社会福祉協議会に送りましたところ、去る12月3日付けで同協議会よりお礼状をいただきました。様々な社会福祉に役立てられますので、今後もご協力をお願いいたします。

使用済み切手をお持ちの方は、〒359-1142 所沢市上野井 3-58-9 小野悦男までお送りください。

令和3年新発田市成人式

昨年3月に開催予定だった「令和3年新発田市成人式」は、新型コロナウイルス禍のため延期されていましたが、11月20日（土）、21日（日）に市民文化会館大ホールにて開催されました。両日合わせて580人の出席者が、新成人としての思いを新たにしました。

なお、城下町新発田会として電報を送り祝意を表しました。

校歌の思い出 (4)



第一中学校

校歌

作詞 相馬 三男
作曲 海鋒 義美

一、朝日に映ゆる飯豊山
仰ぎてともに向学の
息吹きも強くうち集い
若きいのちの花ひらく
ああ新発田一中

希望湧く

二、文化つちかう加治川の
清き流れとたゆみなく
知識をみがき身を鍛え
真理求めて励みあう
ああ新発田一中

ゆめ愉し

三、越路の山河雲晴れて
平和の虹の呼ぶところ
自治の旗風高らかに
郷土をになうこの理想
ああ新発田一中

名は薫る

第一中学校の校歌と戦後の歩み

校長 萩野 喜弘

昭和22年(1947年)、終戦から2年後に学制改革が行われ、6.3.3.4制がスタートしました。新発田市では、新発田中学校を現在の市役所駐車場あたりの御免町校舎を使って開校しました。翌23年(1948年)新発田中学校は、御免町校舎は御免町小学校に明け渡し、新発田城内の旧陸軍被服倉庫を改装した校舎に移転しました。城内だけでは教室がたりず、外ヶ輪小学校の一部を借りて授業を行いました。

学校といっても元は倉庫ですので、通風採光も悪く白昼裸電灯を灯して学習していたそうです。体育館も理科室や音楽室などの特別教室もない学校でした。

昭和24年(1949年)新発田中学校は、外ヶ輪中学校(外ヶ輪校舎を小中で併用)、本丸中学校(城内の旧陸軍施設を引き続き使用)、猿橋中学校(猿橋地内の新校舎を使用)の三つの中学校に分離しました。

三校に分離するときに、校章について検討が行われました。実は、新発田中学校の校章は、開校当時に決められていました。その校章は本丸中学校が、校舎とともに引き継ぎました。外ヶ輪中学校と猿橋中学校は新たな校章を決めることになりました。外ヶ輪中学校は、生徒に公募を行いました。そうして外ヶ輪の輪=「○」の内に中学校=「中」で外ヶ輪中を表現したそうです。当時の生徒は自分たちの学校と校章に誇りをもっていました。

昭和25年(1950年)頃から新発田に警察予備隊(現自衛隊)を誘致しようという運動がありました。賛成か反対かで市を二分する論争が起こったそうです。紆余曲折様々なことがありましたが、28年に警察予備隊が城内で活動することが決まりました。そこで、城内の本丸中学校が外ヶ輪校舎を使うことになり、外ヶ輪中学校は現御免町小学校付近に建設中の町裏校舎に移転することになりました。



町裏校舎への移転に伴って校名が問題になりました。学校の所在地名をとって「新発田市立清水谷中学校」と市教育委員会は決めました。しかし、全市の中学校名を第一、第二、第三・・・というように将来「スクールナンバー制」をとりいれた方がよいと「新発田市立第一中学校」と正式に決まりました。

外ヶ輪中学校から第一中学校に変わりましたが、やっと馴染んだ校章までも変えることには抵抗があったのでしょう。「○」は一筆書きの「一」に通じ、○は「良い」でもあり「より良い一中」を意味するものとして校章はそのまま使われることになりました。つまり、「外ヶ輪中学校」であった歴史と「第一中学校」であった未来を繋ぐ印として残されたそうです。

【現在の第一中学校】

平成2年8月に町裏校舎から、現在の御幸町に新築された校舎に移転しました。

令和3年度の新発田市立第一中学校は、全校14学級、生徒数354名で、少子化・人口減少の波には抗えず、徐々に生徒数が少なくなっておりますが、全校生徒は、「目標をもち 自ら考え ねばり強く実践する生徒」の教育目標のもと学習や部活動、生徒会活動等に意欲的に取り組んでおります。

また、平成4年度の卒業式で卒業生がドイツ語で「第九」を合唱してから、年々、歌い続けており、市内では「合唱の一中」と呼ばれております。

ふる里に帰省の際のお宿・お土産は、広告掲載の各社で。「元気な新発田応援隊」に皆さんで参加しましょう。

(順不同・ホームページにも掲載しています)



JA北越後 農産物直売所

美味しいお米は JA北越後で

営業時間：9:00～18:00 定休日：火曜日
冬季営業時間（12月～3月）：10:00～17:30
http://shop.ja-kitaechigo.jp/

JA北越後オンラインショップ 掲載

マスコットキャラクター「きたっしゅ」

土地・建物・売買・仲介
千葉県知事免許(11)第5435号

三光建設 株式会社

代表取締役 松川 吉男

TEL：047-396-0161(代)
FAX：047-396-0162
千葉県市川市富浜 1-6-20

No.5 農事組合法人二王子

品目：メロン、チンゲン菜

住所：〒957-0347 大字大友3836

TEL：(0254)25-3488 (事務所) メロン……10月中旬～2週間
(0254)25-2285 (代表者宅) チンゲン菜……1月下旬～2月下旬

その他：随時可

手づくりの藍染め小物や
手描きローケツ染めインテリア商品を
真心こめてお作りします

染色工芸藍染 泉屋染物店

〒957-0052 新潟県新発田市大手町1-7-2

電話 0254 (22) 3216
FAX 0254 (22) 1026
HP http://izumiya-aisome.com/

創業明治三十五年
親から子に
伝わる味
おひくろの味
祖母の味
ふる里の味

みやむらの 麩

(有)宮村製麩所

〒957-0356 新発田市岡田1807-6 食品団地内
TEL 0254-22-2950 FAX 0254-26-5415

ごままんじゅう ◆ くるみがんじき

手づくりの白い肌に風味豊かなごまの香りの「ごままんじゅう」。
もち、ごま、こしあんの素朴な味をお楽しみ下さい。
「くるみがんじき」はくるみを水飴でつなぎ、海苔で巻いたお菓子。
加賀の食文化が新発田に入り、今では、地域に根ざした郷土菓子のひとつとなりました。

有限会社 和泉屋

〒957-0053 新発田市中央町2-1-17
TEL (0254) 22-3289 FAX (0254) 22-3900
〈営〉9:00～18:30 〈休〉元日
※売り切れ次第、閉店17:00とさせていただきます。

江戸屋餅菓子舗

店：新潟県新発田市中央町3-8-9
Tel 0254-22-3942
定休日：火曜日 営業時間：9:30～18:00
工場：新潟県北蒲原郡聖籠町運湯 3397-1
Tel 0254-27-3390 Fax 0254-27-3356

酒

新発田市諏訪町3-1-7
TEL 0254-22-2350/FAX 0254-23-6233

国際認証取得圃場で栽培された「越後管谷産」の
安心・安全なお米を生産・販売いたします

農地所有資格法人
有限会社 アグリ・システム

〒959-2517 新潟県新発田市藤691番地
TEL 0254-29-2500 FAX 0254-29-2131

結納、ご法事各種ご宴会・パーティにご利用下さい。

〒957-0057 新発田市御幸町1丁目1の1

刺土 志まや

電話 (0254) 22-2102(代)
FAX (0254) 26-3430

庭園カフェ いらしま

新発田市諏訪町3丁目1番17号

くだもの生産直売
ぶどう、りんご、西洋梨、桃
果実加工

高橋農園

〒959-2506 新潟県新発田市横山149番地
直売所FAX兼用 0254-29-2287
E-mail kenta@muse.ocn.ne.jp

果物の地方発送
西洋梨ルレクチェの贈答

大切な方への
贈り物にはお米を!

産地直送でお米・新潟県産コシヒカリの
お取り寄せならおの米店へ

おの米店

電話 0254-25-2434
090-5197-8067
美味しいお米を販売 8:00～21:00

編集後記

◆ 昨年のNHKの大河ドラマ「青天を衝け」では、日本資本主義の父と称される渋沢栄一（埼玉県深谷市出身）の生涯を描いていました。新発田出身の実業家大倉喜八郎は、栄一の三歳年上で、波乱の時代にあってお互いに才能を認め合い、共に日本の発展に尽くしました。

喜八郎翁の別邸「蔵春閣」の新発田市内・東公園への移築が、今春4月には完成する計画と聞きます（一般公開は未定）。建築にも、美術品にも造詣の深かった翁のお屋敷は、新発田の新名所になることでしょう。ふるさと訪問で、皆さんとご一緒できる日が楽しみです。